

# NJ 素流協 News

平成21年 7月25日 第55号

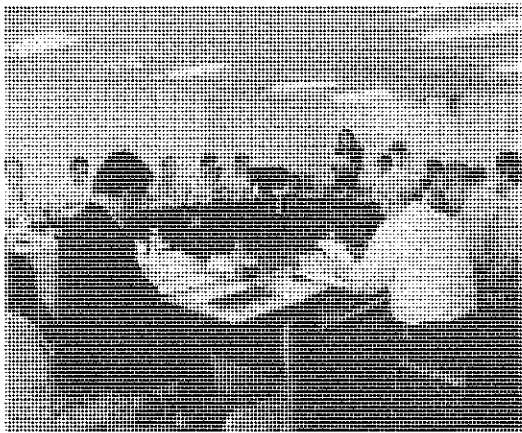
平成21年7月25日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館9階)  
 TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

## 第一回国産材利用拡大推進需給協議会

今年度第一回協議会が、七月三日、盛岡市の農林会館会議室において開催された。下山協議会長から「昨年度終わりに会の存続について諮ったところ、有意義であるとして承認された。今年度もさらなる成果を期待したい」と挨拶があった。引き続き各項目について、次の通り報告・協議が行われた。

### 一、協議会平成二十一年度事業・収支報告及び平成二十一年度計画

昨年度は協議会を四回開催、市況や生産現場の動向を報告し、意



見交換を行った。協議会運営費は、合板工場と素流協からの負担金計九四六千円で賄われ、監査の結果、業務・会計は適切に処理されていると監事から報告があった。

新年度は四回の協議会のほか、研修会等も計画に含め、一、一〇〇千円の予算を計上している。

### 二、NJ素流協今年度事業計画

平成二十一年度共同販売出荷計画数量は合計一七六千 $m^3$ 。国産材安定供給体制のさらなる整備・充実のほか、伐採跡地の森林再生への取組等を進めることとしている。

### 三、原木等の需給動向の現状と今後の見通し

ア、素流協の出荷実績と見通し  
 ホクヨーP、北日本Pへの今年四〜六月の出荷量累計は二六、四一六 $m^3$ で、生産調整の影響で、前年同期と比較すると五一・五%と大幅に減少した。七月の出荷見通しは、ホクヨー一、一〇〇 $m^3$ 、北日本六、一〇〇 $m^3$ 、合計一七、二〇〇

$m^3$ で、従前のペースに戻ってくる見込みである。なおアカマツ材は工場での利用の予定がないことから出荷が見込めない。

### イ、合板工場等の需要動向と見通し

【ホクヨープライウッド報告】  
 今年五月の全国の合板生産量は一六五、九一八 $m^3$ であった。住宅着工ベースでは年間八〇万戸を下回ると言われ、厳しい状況にある。

市況は三月が底値で、一二ミリの価格が六〇〇円を割ったが、秋需に向け学校耐震化等公共事業に資金が流れば市況も安定するだろう。なお日本合板工業組合連合会では型枠用合板への用途開発を進めており、スギ用途が増えることを期待している。

ホクヨーについては五〜六月にはご迷惑をかけたが、生産と原木在庫の流れは徐々に安定するだろう。ただ全国的に七割前後の操業が続いており、我々も当面それに合わせるしかないと考えている。

### 【北日本プライウッド報告】

合板への国産材使用量を業界全体で約束の三〇〇万 $m^3$ まで伸ばす

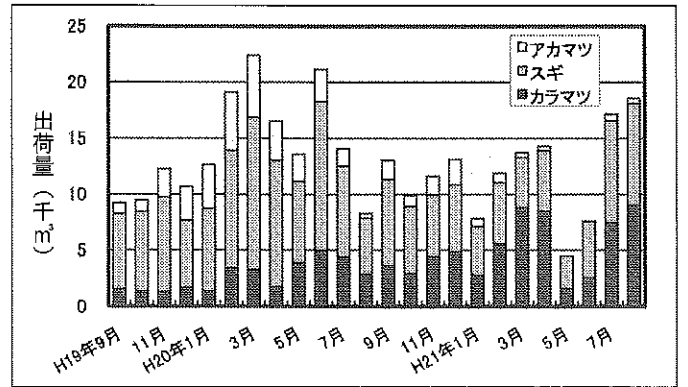


図 ホクヨーP、北日本P合計月別出荷量の推移(平成19年9月～21年8月)

板に化粧単版を貼ったフローリングの製造を考えている。

【委員からの質疑】

(問)七月の原木受入は前年と比べると大分増えるようだが?

(答)国産材の使用比率が、前年の六割から七〜八割に上がるため。ただしその比率が適正かどうかは、外材需給を含め様子見の段階だ。

(問)型枠用の需要について今後の見通しや期待は?

(答)針葉樹型枠合板は今まで輸入物に依存して、ほとんど手をかけてこなかった。スギは強度が弱く、どうやってJASに適合させるか、単板の厚さ構成や枚数をどうするかなど、各社から実験データを出し合うことになっている。

(問)アカマツの今後の使用見通しは?スギ、カラマツと比べて加工上の問題などはあるのか?

(答)青カビや虫の問題があるのでもう少し後になってから使いたい。加工上特に難しいことはないが、一般の構造用では端境期

があるためにマーケットに乗せにくい。商品開発が鍵になるだろう。

ウ、素材生産業者の生産動向と見通し

合板のほか、パルプ工場の減産で各事業体とも苦しんでいる。素材生産を抑え、国有林の請負や間伐でしのいでいるところが目立つ。地元の製材所、運送業者も仕事がない状況である。スギはトビクサレが多く、カラマツ中心に生産しているところが多い。

安定的に生産活動をしたいが、工場側で受入ストリップとなればついていけない。お互い計画的にやっていかなければならないと思う。

四、素材生産をめぐる全国的動向  
全素協佐々木参与より、国産材型枠用合板技術検討委員会の開催、一、二、三、八億円の補正予算事業の始動、全国の素材流通コーディネート事業の現況等が紹介された。

五、岩手県からの情報

県農林水産部西村技監と同林業振興課木村課長より、国内の二酸化

化炭素排出量取引試行制度が紹介されたほか、補正予算事業の実施に向けた、県担当課の作業進捗状況、補助金申請の流れなどの説明があった。

六、その他

ア、平成二十一年度補正予算「森林整備加速化・林業再生事業」への対応状況

七月初めに本事業の地域協議会が設立され、素流協は高性能林業機械等導入、流通経費支援、利子助成をとりまとめる流通部会の事務局を担当することになった。

流通経費支援を受けた生産者は、合板工場との間で「間伐材安定取引協定」を締結する必要があり、素流協では組合員分をまとめて工場と協定を結びたいと考えている。また国、県からの情報は逐次組合員に伝えていく。

イ、その他

需給協議会から県に対し、平成二十八年岩手県国体の競技場等建設に、県産材を使用した集成材、合板、製材品等を優先的に使うよう要望書を提出することとした。

ことが基本だと考えている。若干の過不足はあるが、当社は月間六〇〇〇m³前後でいけると思う。  
国産材使用で困っているのはスギの扱いで、ツーバイフォー、パネル工法参入にあたり、表面のトビクサレが当面の問題である。

【カリヤ報告】

前二社と同様危機的な状況の下、フロア材で不採算部門をカバーしているが、合板部門は縮小傾向である。そのような中、納入先から国産材台板の要望があり、スギ台

# 平成二十年の木材需給

「平成二十年木材需給表（用材部門）」が七月に林野庁より公表された。

その内容と既に五月に公表されている「平成二十年木材統計」より、平成二十年の用材を主とする素材（丸太）需給動向の概要をお知らせします。

## △木材自給率二十四%以上昇

平成二十年の木材需要は、前年より約四四〇万立方メートル（五・

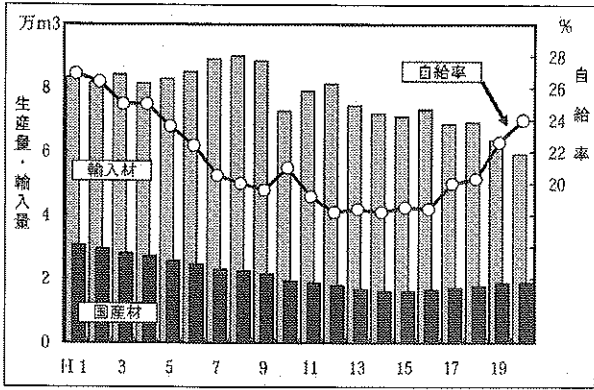


図1 国産材生産量、外材輸入量、自給率の推移

三%)減少して、七七九六・五万立方メートルとなった。

一方、供給は、国産材が若干増大したが、外材の輸入量が需要の減少量と同程度に減少した。

このことから、結果的に木材自給率が一・四ポイント上昇し、二四・〇%となった。

## △用途別需要量

平成二十年の用途別需要量は、パルプ・チップ用材が最大で、次いで製材用材、合板用材となっている。

平成十九年に比較して、パルプ・チップ用材は約八五万立方メートル増大しているが、製材用材は三三万立方メートル、合板用材は九八万立方メートル減少している。

これら用途別の割合は、平成初期には製材用材五〇%、パルプ・チップ用材三五%、合板用材十五%であったものが、平成二十年には、製材用材三五%、パルプ・チップ

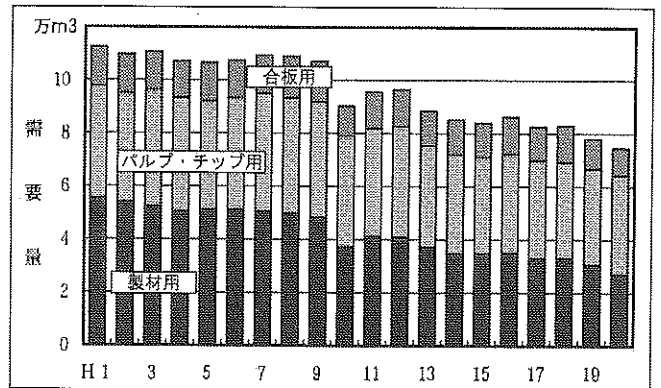


図2 用途別需要量の推移

用材五〇%、合板用材十五%と、製材用材が減少し、パルプ・チップ用材が半量を占めるようになっていく。

## △木材需要量と丸太供給量、国産材（地域材）割合

木材需要量に対する供給は、国産丸太が二四%、輸入丸太が一〇%、輸入製材品が六六%となっている。

丸太供給量に対する国産材（地域材）の割合を平成十六年以降見ると年々増大してきており、全国では平成十六年五一%から平成二

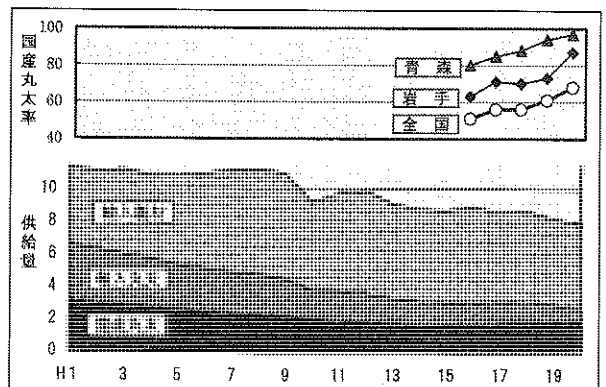


図3 材種別供給量の推移と供給丸太に占める国産丸太率の推移

十年六八%に、青森県では地域材が八〇%から九七%に、岩手県では六三%から八七%に上昇している。

## △国産丸太の用途別生産量

国産丸太の生産量は、この数年間わずかずつではあるが増大してきている。

全国での平成二十年の用途別生産量を五年前の平成十六年と比較すると、製材用が三六万立方メートル減少しているのに対して、合板用一六〇万立方メートル、木材チップ用八五万立方メートル増大

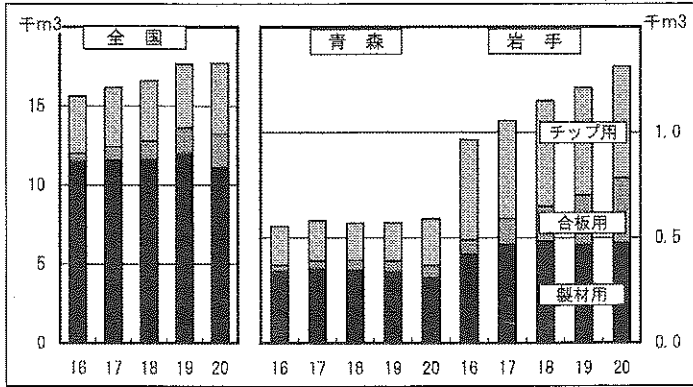


図4 国産丸太の用途別生産量

している。  
 また、これらの内訳は五年前には製材用七三%、木材チップ用二三%、合板用四%であったものが、平成二十年は木材チップ用は同程度(二三%)であるのに、製材用が減少し(六二%)、合板用が大幅に増大して(十二%)いる。  
 青森県、岩手県において同様にみると、青森県では総計で五五万立方メートルから五九万立方メートルの範囲であまり変化していない。

いが、岩手県では年々増大してきており、この増大要因は合板用の増である。  
 △国産丸太の樹種別生産割合  
 全国的には国産丸太の五〇%をスギが占め、その他針(ヒノキ)二〇%、広葉樹十五%、カラマツ一〇%強、アカマツ五%となっており、この割合は五年間で大きな変化は認められない。  
 これに比して、青森県ではスギの割合が年々増大し、平成二十年に六〇%強となっている。  
 これは反対に広葉樹とその他針(ヒバ)の割合が減少し、アカマツ(十五%弱)、カラマツ(五%程度)は変化していない。  
 また、岩手県では、反対にスギの割合が三五%弱と全国よりも低くなっており、割合もあまり変化していない。これに比して、広葉樹が年々減少してきているが、それでも全国平均よりも大きな割合となっている。カラマツ、アカマツはわずかではあるが増えている。

今年4月1日から6月末日までに、次の方々が新たに組合員とされたのでお知らせします。  
 ☆新組合員  
 1住 所 久慈市山形町  
 会社名 山林業(有)  
 代表 代表取締役 上山高雄  
 入会 平成21年4月8日  
 2住 所 二戸市浄法寺町  
 会社名 小船林業  
 代表 代表 小船文雄  
 入会 平成21年6月25日  
 3住 所 気仙郡住田町  
 団体名 佐々木林業  
 代表 佐々木嘉太郎  
 入会 平成21年5月26日  
 4住 所 遠野市附馬牛町  
 団体名 佐々木林業土木  
 代表 佐々木賢三  
 入会 平成21年6月3日  
 5住 所 八幡平市作平  
 団体名 (有)関善林業  
 代表 取締役 関 雪江  
 入会 平成21年6月25日

### 新規組合員紹介

- 今年4月1日から6月末日までに、次の方々が新たに組合員とされたのでお知らせします。
- ☆新組合員
- 1住 所 久慈市山形町  
会社名 山林業(有)  
代表 代表取締役 上山高雄  
入会 平成21年4月8日
- 2住 所 二戸市浄法寺町  
会社名 小船林業  
代表 代表 小船文雄  
入会 平成21年6月25日
- 3住 所 気仙郡住田町  
団体名 佐々木林業  
代表 佐々木嘉太郎  
入会 平成21年5月26日
- 4住 所 遠野市附馬牛町  
団体名 佐々木林業土木  
代表 佐々木賢三  
入会 平成21年6月3日
- 5住 所 八幡平市作平  
団体名 (有)関善林業  
代表 取締役 関 雪江  
入会 平成21年6月25日

### 冗談欄

## 「?」、入籍、挙式

「紙、葉、草、花、木とは何かわかるか」と問題を出された。首を捻っていると、さらに「銀、真珠、ルビー、サファイヤ、金、エメラルド、ダイヤモンド」と続けられた。  
 結婚記念日で、時を経るに従って安くありふれた物から高価で強固な物へと変わってくる。  
 あるメーカーが何故か結婚三十周年(真珠婚)を表す漢字一文字を調査しており、夫妻共に「真」が第一位である。夫の「和、愛、絆」などはうなずけるが、妻の「忍、波、戦、苦、諦」などには心の奥底を見せられた思いがする。  
 また、結婚記念日とはいったのかと聞いている。  
 入籍日二九%、挙式日三五%、その他の日三六%となっている。  
 夫婦にとって、入籍、挙式のほかに記念になる日って一体何をしたら日なの。

平成21年6月分の販売実績

- 1 合板用出荷量を先月と比較すると、スギが約2,060m<sup>3</sup>、カラマツが約990m<sup>3</sup>、アカマツが約70m<sup>3</sup>増大し、全体で約3,120m<sup>3</sup>増大している。昨年6月と比較すると、スギが約8,330m<sup>3</sup>、カラマツが約2,390m<sup>3</sup>、アカマツが約2,810m<sup>3</sup>減少し、全体で約13,530m<sup>3</sup>と大幅に減少している。工場別では、ホクヨープライウッドが先月比較で約1,940m<sup>3</sup>増大、昨年6月比較では約12,840m<sup>3</sup>と大幅減、北日本プライウッドが先月比較で約1,170m<sup>3</sup>増大、昨年6月比較で約690m<sup>3</sup>減少となっている。これら増減の主な原因は、工場側の受入調整によると考えられる。石巻2工場への出荷はなかった。なお、これら合板用出荷量のうちシステム販売取扱量は先月より約110m<sup>3</sup>増となっている。
- 2 その他（合板用以外）の出荷量は先月より約100m<sup>3</sup>、昨年6月より約590m<sup>3</sup>減少している。
- 3 今年度の年間計画量に対する3ヶ月あたりの累積出荷量の割合（目標達成率）を25%とすると、今月の合板用出荷及び全体出荷は計画を8~9%程度下回る進捗状況となっている。

(m<sup>3</sup>, %)

樹種	長級	販売先				計	累計			
		合板用			その他		計	その他	計	
		ホクヨー プライウ ッド(株)	北日本プ ライウッ ド(株)	セイホク (株)、西北 プライ (株)						小計
スギ	2.0	760	3,097		3,858		8,718			
	4.0	180	942		1,123		5,257			
	計	941	4,039		(1,043) 4,980	252	(2,532) 13,974	51.0	829	14,804
カラマツ	2.0	743	1,138		1,881		7,977			
	4.0	193	489		682		5,073			
	計	937	1,627		(233) 2,564	78	(472) 13,050	47.0	178	13,228
アカマツ	2.0	51			51		418			
	4.0	16			16		32			
	計	67			(67) 67		(450) 450	2.0	0	450
その他針 広葉樹						69		74	74	
合計		1,944	5,666		[0] (1,342) 7,610	399	[0] (3,454) 27,474	100.0	1,198	28,672
目標達成率							16.6		12.0	16.3
計画量							166,000		10,000	176,000

長級2.0には2.1を含む ( ) はシステム販売取扱量(内数) [ ] はストックヤードからの出荷量(内数)

落穂拾い

「素流協ニュース」先月号の「落穂拾い」欄で取り上げた「わが胸の燃ゆる思ひにくらぶれば 煙もろすし 桜島山」という歌の作者は、平野国臣という人である。この人は、江戸時代末期、すなわち幕末の頃に福岡藩士であったが、三十一歳のとき脱藩し、京都に出て西郷隆盛らと知り合い、志士としての活動を始めた。最初に表舞台に登場するのは西郷の自殺未遂にかかわる経緯である。この事件の発端は、幕府大老井伊直弼が尊皇攘夷派を弾圧した安政の大獄で、薩摩藩と反井伊派の公家勢力との橋渡し役をした僧月照と西郷は追われる身となり京都を脱出するのである。平野国臣は、薩摩に向かう月照を警護する命がけの任務を頼まれたのに快諾し、山伏に変装し知略で追っ手を逃れた。ところが、保守色に転じた薩摩藩は月照の薩摩入りを拒否し、殺害しようとする。途方に暮れた西郷は月照と入水自殺を図った。月照は死亡し、西郷は国臣らの懸命の介抱で息を吹き返す。逃げ延びる国臣の後姿に頭を垂れ、見送ったのが大久保利通であったという。身を隠した国臣は薩摩に倒幕の決意を促すために再度入国を試みるが、鹿児島近くまで来ると大久保から

「入国不可能」という伝言が届く。このとき国臣が、薩摩藩を桜島になぞらえ、無念の思いを刻んだのが冒頭の「わが胸の……」の歌である。これは、失恋の歌などではなくて、憂国の志士の切なる心情のほとばしりなのである。

その後、活動を続けるうちに福岡藩に捕らえられ、投獄されるが、後に朝廷の命により釈放される。最後に、但馬の生野で拳兵(生野の変)を企てるが、捕らえられ、未決のまま処刑された。

「わが心 岩木と人は思ふらむ世のため捨てし あたら妻子を」

平野国臣が志士として活動するため、離別した妻子を思つて詠んだ歌である。

岩や木のように心のない人間と思われても妻子を捨てる。彼にこの決断をさせたのは、当時のわが国を襲っていた外国の脅威であったと言われている。

それにしても、現在のわが国の政治の混乱ぶりは何か！ 今時の日本には、どちらを向いても政治家はいない。日本をどうするのか、何処に導くつもりなのか。背骨のぐにやぐにや曲がった政治屋ばかり。今こそ平野国臣の心を開け！

「わが胸の燃ゆる思ひにくらぶれば 影もろすし 政治屋ばかり」